

「小山田小学校の小山田太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立小山田小学校

2 学年・人数

5年生・6年生（計20人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和4年2月～5月 総合的な学習の時間（本校体育館及び校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和4年5月22日（日） 小山田大運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

小山田太鼓踊り（こやまだだいこおどり）

(2) 由来

小山田太鼓踊りは、小山田町に伝わる郷土芸能である。豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に、島津義弘が武士たちの士気を高めるために始めたと言われている。その後も、小山田町では、雨乞いや農作物の虫除けを祈って行われたそうだ。戦後、途絶えていたが、1965年に復活したそうだ。

(3) 構成等

太鼓とか鐘に分かれて踊る。太鼓の方がやや多い。独特のリズムがあり、それぞれ1番道、2番道、3番道・・・と呼ばれる踊りの型がある。それらをいくつか組み合わせ、隊形を変えながら踊る。

太鼓の人は、白い衣装を着て太鼓を身に付ける。飛び跳ねながら太鼓を打ち、力強く手をまっすぐ上に伸ばす。鐘の人は、黒い衣装を着る。約3kgの重い鐘を片手で掲げ、リズムよく鐘の音を響かせる。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間で、5・6年生が取り組んでいる。踊りの練習だけでなく、太鼓踊りのいわれ等についての調べ学習も行っている。

小山田町太鼓踊り保存会が、練習の指導や発表の着付け、飾り付け、校外での発表における道具の運搬等、全面的に協力してくださっている。

小山田町孝子碑夏祭りでは、太鼓踊り保存会による太鼓踊りの披露がある。踊り手も高齢化が進み、後継者育成に苦慮している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小山田町の伝統文化を伝承していくために、教育課程への位置づけを明確にし、5・6年生全員が踊ることができるようにしている。また、踊りの由来に

についても学習し、小山田の文化に誇りをもつことができるようにしている。

前年度の3学期に6年生が5年生や4年生に踊りを伝えるなどして、子ども間で伝承していくようにしている。

また、踊る前の衣装の着付け及び太鼓の装具の付け方などを、保存会の方々から指導を受けながら保護者及び職員も一緒に行い、伝承文化にかかわる機会を設けたり、学校だよりで活動の様子を積極的に公開したりしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童生徒】

初めて太鼓踊りを踊ってみて、6年生や太鼓踊り保存会の方々に教えていただいて、だんだん踊れるようになった。

【6年生児童生徒】

最上級生として、4・5年生に伝えられるようにがんばった。24あった村のうち、現在も伝統を受け継いでいるのは小山田だけと聞き、すごいと思った。

【保護者】

子どもたちが踊るのを見るのがとても楽しみである。地域の協力のもと、小山田の伝統を受け継ぐことができありがたい。

【教職員】

小山田の伝統文化に触れる機会をいただき、地域の理解に役立っている。コロナ禍で実行が難しいが、地域との交流のきっかけになった。

【保存会から】

踊り手の高齢化で、体力的にもハードになっている。歴史的にも貴重な価値ある踊りであるため、子どもや地域住民も一緒に受け継いでいてもらいたい。

【地域の方から】

コロナ禍で中止が相次ぐ中、太鼓踊りを見ることができるのは貴重だ。自分たちの小山田町に誇りをもって、大切にされてきた文化を引き継いでほしい。